

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 28 年 7 月 17 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	160005305	
開催日	平成 28 年 7 月 9 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	名城病院 地下大会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	病理検査の医療安全			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	小牧市民病院	藤田 智洋	技師	
講師	現場で行うべき医療安全行動とは～2年間の活動を通して～ 名城病院 リスクマネージャー 今野 里奈 再発防止システムである根本原因分析法 (RCA) について 藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院 今枝 義博			
内容	<p>テーマは病理検査の医療安全となっているが、病理に特化した内容だけでなく一般的な医療安全についての研究会を開催した。リスクマネージャーである今野氏より、実際に起こった医療事故などを提示しながら、人間は思い込みをして間違いを起こすものだとの解説があった。医療安全を進めていくには、システムの確立と促進、そして日頃からのコミュニケーションが非常に大切との説明もあった。</p> <p>今枝技師より根本原因分析法 (RCA) について、術中迅速標本作成時のインシデントを例にして、実際の進め方をわかりやすく解説があった。この分析法はトヨタでも実際に使われているとの説明を頂いた。根本原因分析法は医療安全などで、原因を解明する手法である。今回使用方法が詳しくわかり、今後の問題解決に活用できると思われ、非常に勉強になった。</p> <p>参加者からは、追加報告の確認漏れや、インシデント・アクシデントを多く起こす人への対応など、日ごろから疑問や苦慮していることへの質問や意見交換が活発に行われた。病理検査のインシデント・アクシデントは、患者の治療等に直結する非常に重篤な問題を起こす可能性がある。安全で安心できる医療を提供するための重要点などが分かり、非常に有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：37名 (会員 37名、非会員名、賛助会員 名、学生 名、その他 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 28 年 10 月 23 日 報告者：橋村 正人

行事種別	基礎講座	行事番号	160013720
開催日	平成 28 年 10 月 16 日 (日)		
時間	開始	9 時 00 分	終了 16 時 00 分
場所	名古屋大学医学部保健学科 (所在地 名古屋市)		
テーマ	乳腺の病理細胞検査学の基礎を学ぶ		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	名城病院 橋村 正人 技師		
講師	<p>乳腺の解剖組織学とその疾患 JA 愛知厚生連 海南病院 北島 聖晃 技師</p> <p>乳腺の超音波画像 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 池田 美奈 技師</p> <p>乳癌の遺伝子学と HER2(FISH)法 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 千田 美歩 技師</p> <p>乳腺組織の凍結標本の理論と作製のコツ 西尾市民病院 中村 広基 技師</p>		
内容	<p>乳腺の病理細胞検査学の基礎を学ぶというテーマで基礎講座を開催した。午前の講義では、北島技師より乳腺の基礎的な解剖学と、各疾患のマンモグラフィー像から組織・細胞像まで解りやすく説明して頂いた。池田技師より乳腺の基本的な超音波画像の読み方と、疾患別の超音波画像の解説をして頂いた。千田技師より未だ導入施設の少ない遺伝子検査の基礎と、HER2(FISH) のシグナルのカウント等についてわかりやすく説明して頂いた。受講者からの質疑も多く、遺伝子検査に対する関心の高さがうかがえた。そして、中村技師には凍結標本の理論的なことから、凍結切片の薄切のコツ等を丁寧に説明して頂いた。</p> <p>午後の実習では、3 メーカーよりクリオスタットを計 6 台お借りして、実際に薄切を行った。各クリオスタットに班員を配置し、各受講者に薄切のポイントやコツを詳しく説明しながらの実習となった。また、蛍光顕微鏡を設置して午前の講義にあった、HER2(FISH) のシグナルを実際に観察してもらった。遺伝子検査を実施している施設以外ではあまり見ることのできない、FISH のシグナルを実際に観察することで、FISH に対する理解が深まったと思われる。</p> <p>乳腺検査では凍結切片の作成や、HER2(FISH) は必須の項目となっています。凍結標本の作製の重要点や薄切のコツがわかり、また実施している施設の少ない遺伝子検査を身近に感じられるなど、非常に有意義な基礎講座であった。</p>		
参加者	総数：64 名 (会員 62 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 2 名、その他 名)		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 28 年 12 月 13 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	160022281	
開催日	平成 28 年 12 月 3 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (シスメックス株式会社 名古屋支店) (所在地 名古屋市)			
テーマ	臨床からみた泌尿器細胞診と新報告様式に沿った細胞像			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	公立西知多総合病院	吉本 尚子	技師	
講師	泌尿器新報告様式に沿った細胞判定と細胞像 公立西知多総合病院 今井 律子 尿細胞診の臨床的応用について 名古屋第二赤十字病院 泌尿器科 山田 浩史			
内容	<p>泌尿器細胞診の診断基準の標準化を目指して、2015 年 4 月に日本臨床細胞学会は泌尿器細胞診報告様式を制定した。泌尿器細胞診報告様式は、泌尿器科からの検体だけでなく内科からの検体にも利用でき、実地臨床にも有用な報告様式である。今回、今井技師より報告様式の概要と各判定区分における細胞所見についてわかりやすく解説して頂いた。また、実際に検鏡する際には、背景所見と上皮細胞の出現パターン、個々の細胞異形が重要であるとの説明があった。そして、細胞所見のスコア化の提案があり、実際の症例を交えて詳しく解説があり今後に役立つと思われた。</p> <p>泌尿器科臨床医の山田先生にはどのような時悪性を疑うのか、どのように診断されるのかを臨床医の立場から詳しく解説された。また、ほとんど検査技師では見る事の出来ない、内視鏡手術の動画が提示され、泌尿器科に対する理解が深まった。最後に未だ導入施設の少ない、最新のロボット支援下手術の説明をして頂いた。ロボット手術の利点・欠点など動画を交えて詳しく解説があり、新しい医療の一端を垣間見えて非常に勉強になった。</p> <p>泌尿器細胞診新報告様式は、今後多くの施設で取り入れられると思われる。その運用や細胞判定の考え方などが良く理解できた。また、泌尿器科の臨床の実際がわかり、病理細胞検査が特に必要であることを認識でき、今後につながる非常に有意義な講演であった。</p>			
参加者	総数：53 名 (会員 53 名、非会員名、賛助会員 名、学生 名、その他 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 1 月 30 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	16002732
開催日	平成 29 年 1 月 14 日 (土)		
時間	開始	15 時 00 分	終了 17 時 00 分
場所	名古屋第二赤十字病院 研修ホール (所在地 名古屋市)		
テーマ	乳癌診療に関わる臨床検査 超音波検査と病理検査の役割を知るために		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	大雄会 総合大雄会病院 半田市立半田病院 国家公務員共済組合連合会 名城病院	西谷 由美子 村雲 望 橋村 正人	技師 技師 技師
講師	<p>病理レポートの理解を深める ～サブタイプ分類と HER2 検査を理解するために～</p> <p style="text-align: right;">愛知県がんセンター中央病院 柴田 典子 技師</p> <p>乳腺超音波画像の読み方、捉え方</p> <p style="text-align: right;">JCHO 中京病院 加藤 鮎美 技師</p> <p>実際の症例で考えてみよう！</p> <p>超音波検査 名古屋第二赤十字病院 石神 弘子 技師</p> <p>病理検査 名古屋第二赤十字病院 長田 裕之 技師</p>		
内容	<p>乳癌診療に関わる臨床検査というテーマで、生理班・病理細胞班と合同で研究会を開催した。最初に柴田技師より乳癌のタイプを、ホルモン受容体と HER2 が陽性か陰性かで、サブタイプに分類しどの薬物療法を選択するかのお話を頂いた。また、HER2 とは細胞表面に存在する糖タンパクで、癌細胞の増殖にどのように関与しているかなどを詳しく解説して頂いた。そして、実際の HER2 を免疫染色と FISH の画像を提示していただき理解が深まったと思われた。次に、加藤技師より一般的な乳腺の超音波画像の動画を提示しながら、エコー像の読み方・カテゴリー分類やエラストスコア一等、レポートの書き方なども含めて解りやすく説明して頂いた。その後、実際の症例を交えて詳しく解説があり、乳腺超音波画像に対する理解が深まった。最後に、石神技師と長田技師より、超音波と病理検査、マンモグラフィーも入れた症例検討を行った。超音波像の読み方・細胞像・組織像、そして治療までを詳しく解説して頂き非常に勉強になった。</p> <p>乳癌診療は、生理検査・病理細胞診検査・遺伝子検査と多岐にわたる部署が関わっている。そのため、他部署との合同研究会を行っていくことにより、迅速かつ正確な診断に寄与すると思われ、他部署との連携が重要であると認識できた、非常に有意義な研究会であった。</p>		
参加者	総数：97 名 (会員 94 名、非会員名、賛助会員 1 名、学生 名、 その他 2 名)		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 2 月 20 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	16002732
開催日	平成 29 年 2 月 11 日 (土)		
時間	開始	15 時 00 分	終了 17 時 00 分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 会議室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	平成 28 年度愛臨技精度管理調査報告・ISO 15189:2012 認証取得施設の一例		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司会	藤田保健衛生大学病院	川島 佳晃 技師	
講師	<p>精度管理調査報告 細胞部門 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 中根 昌洋 技師</p> <p>精度管理調査報告 病理部門 公立陶生病院 柚木 浩良 技師</p> <p>ISO 15189:2012 認証取得施設の一例 名古屋大学医学部附属病院 原 稔晶 技師</p>		
内容	<p>平成 28 年度愛臨技精度管理調査報告の研究会を開催した。最初に中根技師より細胞部門の精度管理調査報告を行った。今回の細胞部門の精度管理調査では、フォトサーベイの画質の低下が指摘されていた。そのため、画質低下の理由と今後の対策の説明が初めになされた。その後、各設問について鑑別症例を提示されながら詳しく解説された。次に、病理部門の精度管理調査報告が柚木技師よりなされた。今年度の病理部門は、フォトサーベイ形式による、病理学および病理技術の基礎的知識の確認をする設問であった。各設問について解りやすく解説され理解が深まった。評価対象外設問として、HE 染色と HE 染色のアンケートが行われその報告がなされた。HE 染色は各施設によって色合いに違いが大きいことが分かり、かなり興味深い内容であった。HE 染色のコントロールや、精度管理の進め方についての質問や意見交換が活発になされた。最後に ISO 15189:2012 認証取得施設の一例について、原技師よりお話があった。実際に ISO 認証を取得されている施設の現状が分かり、非常に勉強になった。マニュアルの整備や新人研修の話は、今後 ISO を取得しようとしている施設のみならず、一般の施設でも役立つと思われた。</p> <p>病理細胞部門は施設により、染色液・染色時間・切片の厚さなどかなり違いがある。また、HE 染色では統一した評価方法や標準的な色合いも決まっていないのが現状である。今後 HE 染色の精度管理を進めて行くには、多くの施設に精度管理に参加してもらい、自施設の状態を客観的に把握して、今後につなげて行くことが重要だと再認識した研究会であった。</p>		
参加者	総数：34 名 (会員 34 名、非会員名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名)		
共催、後援など			